

〈翻訳〉

ユンカー・フォン・ランゲック著
『瑞穂草，第二部，雑学の部』より
第三章 大日本，その地理的概略(1)

熊谷知実

1. 日本の正式名称：ケンペルの誤解

西洋人に Japan という名で知られている，この東アジアの島国の正式名称は〈ニホン〉または〈ニッポン〉である。〈ニホン〉はどちらかといえば優雅な発音であり，〈ニッポン〉が日常に使われている発音である。

〈ニッポン〉という名称は，この国全体のことを指している。ケンペル⁽¹⁾に紹介されたあと誤って呼ばれ続けてきたように，群島のなかの主要な島を指しているのではない。この誤解はあらゆる地理学の著作や地図で繰り返されてきたが，最近の出版物でようやく修正されつつある。

2. 日本の古い伝統的名称：その解釈と伝説

古くは日本の名称を〈大和^{おおやまと}〉と言ったが，これは大きな日本を意味している。最初に漢字が導入された西暦284年(皇紀944年)，〈大和^{おおやまと}〉と同じ意味をもつ漢字が求められて，〈大日本〉の名称ができたということが，西暦720年(皇紀1380年)に完成した日本の歴史書『日本紀』⁽²⁾で明らかになっている。

というのも中国人は大きいことを意味する〈大〉の字を，国や政府，優れた国民的特性に関する概念規定の前に添える傾向にあった。そのため中国は昔は〈大唐〉と名乗っていたのだが，現在は〈大清〉と呼ばれている。

これとの関連で、大きな日本を意味する〈大日本〉という名称を完成させたのだらう。この名称はおそらく12世紀ないし15世紀には使用されていたとみられる。多方面で主張されるように、大英帝国の名称を模倣して現代日本に導入したのではない。現在と同じ発音で〈大日本〉の名称を用いている西暦1712年(皇紀2372年)発刊の百科事典『三才図会』、さらに西暦1715年(皇紀2375年)完成の『大日本史』の書名からも、それは明らかである。

〈日本^{にっぽん}〉という語は、その漢字にも起源をもっている。太陽や日を意味する〈ニ〉、〈ニチ〉、〈ニツ〉という語と、根源や起源、最初、始まりを意味する〈ホン〉という語から成立し、日の出や夜明けを意味しているのである。

この名称は、東方にある日出ずる国に因んで、中国人か朝鮮人が最初に名付けたとみられている。唐の時代(西暦618-905年)の書物には、すでにこの名称が確認できる。〈日本〉という名称が、8世紀以前の日本にすでに導入されていたことは、この文字を含む『日本紀』という書名が証明している。また第38代〈帝〉〈天智天皇〉(西暦662-670年、皇紀1322-1330年)が、西暦670年(皇紀1330年)に、将来は〈大和〉の国を正式に〈日本〉と呼ぶものとするとの勅令を発している。

一方で Japan という語は、中国語の Jipun ないし Jipuan を、ヨーロッパ人が変容させた名称である。

この東アジアにある島国は、これ以外にも優れた日常語や詩文学のなかで、無数の名称を用いて表現されているのだ。その名称は、日本人としての誇りや祖国愛に基づいていたり、国土の形状や立地に由来していたり、国民的英雄から借用していたりする。これらの名称の解釈の大部分は、それを表している古い〈大和言葉〉の解釈が失われてしまったためにすでに明らかではないが、用いられた漢字の二重の読み方から説明がつく名称もある。その大部分は漢字の語義から、あるいはその根底にある伝説から説明することができる。そのなかでも極めて優れている名称のいくつかは、私はここで注目してみることにしよう。それらの名称には、この国ならば

に国民精神の特性をとらえたイメージが映し出されているからである。

日本人の国民感情としては、次のような名称で国が表現されている。

大きな日本の国土を意味する〈大日本国〉と〈大和国〉である。後者は「偉大なる平和の国」という解釈も可能である。というのも〈大和国〉の漢字は〈ワコク〉とも読めるからである。この〈和〉という語は、日本であると同時に平和という意味も表している。また一方で〈大和〉という語には、日本人の極めて優れた国民的美徳，すなわち勇敢さや，祖国愛，死を恐れない行為，柔和性，礼儀正しさといった概念も含まれている。最後に挙げた「礼儀正しさ」という意味を解釈するには，おそらくフランス語の *Politesse du coeur* に相当する「洗練された内面」という表現が与えられるといいのではないだろうか。要するに〈大和国〉は，礼節の国なのである。「祖国の歴史研究」を意味する最近の歴史書『国史案』⁽³⁾によると，〈大和〉という名称は，初代〈帝〉神武天皇(西暦前660年)以降あらゆる天皇が都を構えてきた現在の同名地域の太古の名称にあたり，この理由から国土全域に転用されたということである。〈大和〉という語は〈山〉と〈後〉から成立しているため「山の後ろの国」を意味しているという語源の真偽については，専門家により間違いであると批判されている。

おおいに尊敬されている国という意味の〈御国〉^{おんこく}。接頭辞の〈御〉は，添えられた言葉に尊敬や崇拝の意味を与えている。敬称においても，例えばドイツ語の *Hochwohlgeboren*(高貴な生まれの御方)，*Ehrwürden*(畏敬の念を抱かせる御方)のように用いられている。

これに類似している表現が，〈皇国〉と〈帝国日本〉，すなわち支配者である〈帝〉の国という意味である。中国語読みで〈コウ〉，日本語読みで〈キミ〉は，主人や君主を指している。〈テイ〉は〈帝〉の古い称号のひとつである。

この国は長く孤立した状況にあったことから，守られた国境内にある国という意味で〈玉垣内国〉^{たまがきのうちつくに(4)}，その平和な状況によってもたらされた安全性から，平和な海岸の国を意味する〈浦安国〉^{うらやすのくに}，男性が勇敢なことから，勇

敢な武士のいる南国という意味の〈南膽武洲〉^{なんせけんぶし}、アジア大陸の兵士が持つ重い武器と比較して、日本の剣が小さいことから、かわいらしい槍の国という意味の〈細戈千足国〉^{かしばこきたるのくに}という名称もある。

永遠の国、安定した国を意味する〈扶桑国〉という名称は、アオイ科の〈扶桑〉、〈仏桑花〉または〈芙蓉〉⁽⁵⁾に由来している。極めて硬く耐久性のあるこの木は石化するということで、そこから国家不滅の象徴としてみなされたのである。類似した理由から、日本は象徴的に〈蓬ガ島〉と呼ばれることもある。これは高潔志向の国という意味であり、まっすぐに背高く成長していく蓬⁽⁶⁾の優れた特性に特徴づけられている。

ここまで言及してきた名称同様に、次に続く名称はこの国の形状や立地に由来するものである。岩礁が城壘に似ているという理由から、海の城という意味をもつ〈磯城島〉。

散らばった島という意味の〈敷島〉は、庭園の敷石である〈敷台〉と島国である日本を詩的に比較した名称である。この国の造園術は、風景画を細部にわたって完全に再現しようと試みる。小道の代わりに、歩きやすい平らな石材が、あたかも絵画のように不規則な配列で庭園に並べられているのだ。

浪費癖があり華美を好んだ〈足利〉家の第3代将軍〈義満〉(西暦1368-1393年、1409年没、皇紀2028-2053年、2069年没)によって京都の北西に建てられた黄金の家〈金閣寺〉⁽⁷⁾の庭園には人工池があり、その池に配置された岩石と小島は、日本の島国の形を表現している。この家の屋根の先端には白鶴鴿⁽⁸⁾〈石叩き〉が取り付けられているが、それは国生み神話において非常に重要な役割を果たしている鳥である。

次に続く日本の名称は、国生み神話と国家神話のなかに解釈を求めることができる。

天の下にある国を意味する〈天下〉^{あまがした}、〈秋津〉または〈秋津島〉は、太古の〈大和〉名であるが、その意味解釈はすでに失われてしまった。〈秋津〉の漢字は、〈秋〉の〈港〉を意味しているが、そこに〈大和〉言葉からの

説明は皆目見つけられないであろう。

〈豊原秋津国〉は、豊かな野原の国という意味であり、豊穰や豊満を意味する古い〈大和〉言葉の〈豊〉と、草原や山間の牧草地を意味する〈原〉から成り立っている。この〈豊〉という語を、古代中国の自然哲学の男性原則である〈陽〉と女性原則である〈陰〉に関連づける試みがある。両者間の世界は宇宙に漂っているらしいが、この解釈はまったく根拠に欠けていて恣意的であるといえる。というのも、この名称を構成している語はすべて古い〈大和〉名であり、それに対して〈陽〉と〈陰〉は、後世になって受け継いだ漢字概念の記号だからである。

〈豊秋津国〉は、豊かな繁栄の国と訳されていいだろう。日本の島国が羽根を広げた⁽⁹⁾〈蜻蛉〉の姿に類似しているからというこの名の解釈は、完全に誤っていて根拠もない。

豊かな葦の湿原を意味している〈豊葦原国〉という名称は、日本の国生み神話において非常に重要な⁽¹⁰⁾〈葦〉から由来している。優美な〈葦〉の姿は、山の湿原である〈原〉と湿った高地において、最も美しい装飾のひとつだからである。

この国生み神話と密接に関連しているのが、最初の神の夫婦である伊弉諾と伊弉冉が創造した八つの大きな島国を意味する〈大八洲国〉という名称であり、さらに伊弉諾の矛が海に落ちて、凝固して硬くなった滴の島を意味する〈オノコロ島〉という名称である。このとき日本の最初の島である〈淡路〉が内海〈瀬戸内〉に誕生した。

〈オノコロ〉という語は、自分自身や自立を意味する〈オノレ〉と、凝固や結晶化を意味する〈コリ〉から導かれた語である。

さらに神々の国を意味する〈神の国〉または〈神国〉という名称もある。古い国家神である⁽¹¹⁾〈神〉、すなわち〈帝〉と日本民族の祖先は、天から地上に降臨して最初の居住地を〈九州〉島の〈霧島〉に定めたという。

来世の大海に浮かぶ神話上の〈蓬萊〉山に倣って、不滅の国を意味する⁽¹¹⁾〈蓬萊国〉という名称も日本にはある。その山には〈仙〉または〈仙人〉

という天才が住み、永遠の若さと至福の日々を楽しんでいるという。伝説によると、かつて中国の廷臣が不死の山を探し求めて日本に渡ったが死没し、数名の若い同行者が本州の南東地域にある〈紀伊〉に男の墓を建て、結婚して居住を続けた。これ以降、極楽山である〈蓬莱山〉の描写と具象表現は新婚夫婦に継承され、婚姻の祝宴の場で演じられるようになったという。

最後に、日本最古の神々しい名称を思い出すことにしよう。古代史を記録している有名な日本最古の書〈古事記伝〉(ママ)の神々の時代の章〈神代巻だいのまき〉に最初に登場し、のちに神道の聖典や文学作品に用いられるようになった名称、豊かな葦の原と祝福をもたらす稲穂の国を意味する〈豊葦原とよあしわらの瑞穂国みずほのくに〉という名称である。この名の後半部にある、祝福をもたらす稲穂という意味の〈瑞穂(12)〉は、国民的著書の書名にしばしば採用されてきた。だからこそ私もこの表現を、日本に関する自著の書名に選択したのである。

3. 最初の国の構成要素：最古の区分である〈本土〉、〈四国〉、〈九州〉

〈大和おおやまと〉は当初、〈九州〉と〈四国〉と内海(13)〈瀬戸内〉の小さな島々から成り立っていた。このなかでも〈淡路〉は最古の島とみなされていて、〈本土〉の南の地点からおよそ北緯35度までの間に位置している。

最後に挙げた〈本土〉という名称が、ケンペル以降、欧州人に間違っって〈日本〉と呼ばれてきた本州の現在の正式名称である。この島はこの〈本土〉という名称で、日本の陸軍大臣に1872年に上梓された軍事地理学書『兵要日本地理小志(14)』の中に紹介されている。太古の時代、この島は大陸とみなされていたため、独自の名称をもつ必要がなかった。後に様々な名称を設けることで、国内の他の小さな島々から区別された。例えば主要な国土を意味する〈本土〉、主要な島を意味する〈本島〉、主要地域を意味する〈本州ほんじゅう〉といった名称があったが、このうち〈本土〉がこの島の名称とし

て一般に受け入れられるようになった。〈本土〉以外の二つの大きな島の名称も、実際の名前ではない。〈四国〉は四つの国を意味しているが、それは〈南海道⁽¹⁵⁾〉の四つの国がこの島にあるからである。同様にして、九つの国と訳されるべき国〈九州〉は、西部の海岸道を構成している国、すなわち〈西海道⁽¹⁶⁾〉の九つの国を含んでいる。

4. 国の拡大：先住民〈アイヌ〉の追放と〈日本武^{やまとだけ}〉、〈関東〉

第12代〈帝〉景行天皇(西暦71-130年、皇紀731-790年)は、その忠臣〈竹内宿禰〉が西北地域を巡回して、北部国境の向こうに入れ墨をした毛深い野蛮人〈アイヌ〉または〈蝦夷〉が居住する豊かな大国、すなわち上部にある北国を意味する〈北上〉があることを発見したあと、自らの支配地域を北緯38度まで拡大した。そしてそこに息子の〈大碓〉または〈日本武尊^{やまとだけのみこと}〉を派遣して、西暦110-113年(皇紀770-773年)にその地を征服させ、新たに征服したその国を〈関東〉と名付けた。

6世紀以降、天皇の居住地〈山城〉と〈東山道⁽¹⁷⁾〉沿いの〈近江〉の国境にあった小さな村〈大坂〉の東、北緯35度の地域は〈関東〉と呼ばれていた。この〈大坂〉のような国境城は、〈蝦夷〉の襲撃に備えるために、国境や山の峠道にたくさん築城されていた。〈関東〉は、東側、東国、国境の東にある国、東の王国、オーストリア⁽¹⁸⁾とも訳されるが、33の国から成立している。その西にある33の国は、西の王国、西国という意味で〈関西^{かんせい}〉と呼ばれている。

最近では〈関東〉といえば、同じように〈蝦夷〉に対する〈関〉が置かれていた〈箱根〉山の東にある八つの国〈関八州〉として理解されている。すなわち〈東海道⁽¹⁹⁾〉にある〈相模〉、〈武蔵〉、〈上総〉、〈安房〉、〈下総〉、〈常陸〉、そして〈東山道〉にある〈上野〉、〈下野〉である。かつては〈陸奥〉と〈出羽〉と呼ばれていた〈本土〉の北緯38度以北にある国と同様に、〈伊豆〉と〈甲斐〉もときおり〈関東〉に数えられることがある。

^{あづま}
〈東〉は文学作品においては〈関東〉と同義である。

〈蝦夷〉との数百年にわたる長期戦のあと、日本人は38度線から〈本土〉を〈蝦夷〉と隔てる〈松前〉海峡または〈津軽〉海峡の海岸まで徐々に進出して、ようやく自分たちが島ではなく陸地に居住していた事実を発見した。

実際の古い日本、主要な島にあたる〈親島〉は、コルネット海峡(北緯⁽²⁰⁾30度)から〈津軽〉海峡または〈松前〉海峡(北緯41度5分)までに及び、三つの主要な島〈本土〉、〈四国〉、〈九州〉と沿岸の無数の小さな島々を包括していた。

5. 地理的状況：自然の境界線

しかし現在の日本帝国〈大日本〉は、北緯24度20分(琉球の波照間島)から北緯51度(千島列島の幌筵島)、グリニッジ東経122度53分(琉球の興邦国島)から東経156度36分(幌筵島)に至るまでの群島を形成していて、大きな四つの島を包括している。すなわち主要な島である〈本土〉、その南にある〈四国〉と〈九州〉、北にある〈蝦夷〉、沿岸に広がる無数の小さな島々、なかでも日本海の〈佐渡〉と朝鮮海峡にある〈対馬〉⁽²¹⁾は最重要の島である。さらに北には〈千島〉列島、南には〈琉球〉と〈小笠原〉⁽²²⁾諸島がある。

日本は〈蝦夷〉、〈本土〉、〈四国〉、〈九州〉からなる大きな群島であり、北は〈宗谷〉海峡によって樺太から、北東は〈千島〉列島によってカムチャッカから分けられている。北西の沿岸にあるのは、朝鮮と日本の間で朝鮮海峡を形成している日本海である。東には太平洋がアメリカ西海岸まで広がっている。南には〈小笠原〉諸島が、南西には〈琉球〉諸島が、日本と台湾と中国の間に位置している。

〈本土〉と〈蝦夷〉とは、〈松前〉海峡または〈津軽〉海峡で分けられている。その北岸は〈大島〉(蝦夷)、南岸は〈陸奥〉(本土)となっている。

5 - 1. 内海〈瀬戸内〉とその入口

南にある二つの島〈四国〉と〈九州〉は、主要の島である〈本土〉からは内海〈瀬戸内〉で分けられている。この海は、欧州人には通常「内陸海」と呼ばれているが、あらゆる観点において適切だと思われる「内海」という名称を、私は本書で選択することにする。

日本の内海〈瀬戸内〉の東西の長さは392キロメートルである。ところどころ狭くなったり、島で中断されたりするため、幅は16～49キロメートルと変化に富んでいる。この内海〈瀬戸内〉は六つの海域⁽²³⁾に分けられていて、海岸がある地域に従ってそれぞれに名称がある。それゆえに〈内灘〉と呼ばれることもある。外周1146キロメートルの内海〈瀬戸内〉沿岸には、優れた当錨地や港をもつ無数の繁栄した商業の町が連なっている。沿岸の村や人口の多い地域は互いに、または内海〈瀬戸内〉に浮かぶ島々とともに、活気に満ちた往来を続けているのである。

この内海〈瀬戸内〉は、二つの海峡で太平洋とつながっている。内海〈瀬戸内〉の東側は〈紀伊〉水道によって、〈本土〉の〈紀伊〉と〈淡路〉島と〈四国〉の〈阿波〉をつなぎ、〈友ヶ島〉と〈鳴門〉という二つの海峡⁽²⁴⁾を形成している。内海〈瀬戸内〉の南側は〈豊後〉水道によって、〈四国〉と〈九州〉の〈豊後〉をつないでいる。

5 - 2. 〈下関〉海峡と、同名の町

〈下関〉海峡または〈赤間関〉海峡は、〈早鞆の瀬戸〉⁽²⁵⁾と呼ばれることもある。朝鮮海峡から内海〈瀬戸内海〉に入る西の入口にあたり、〈本土〉の〈長門〉と〈九州〉の〈豊前〉を分けている。長さは11キロメートル、幅は620～1550メートルである。この海峡の西の入口には〈六連〉島⁽²⁶⁾があるが、地図には〈ロクレン〉⁽²⁶⁾と誤って記載されている。この海峡の東端にある〈彦島〉⁽²⁷⁾には、科学機器が十分に搭載されている灯台がある。危険な潮流のため、この海域には四基の灯台が設置されている。

この海峡の西の入口より6.5キロメートル西には〈下関〉があるが、こ

こはかつて〈赤間関〉という名で呼ばれていた。急斜面の麓に位置し、3キロメートルの主要道路しかないが、近年重要になった同名の商業都市がある。海底ケーブルがここで〈長崎〉からの電信網をシベリアからペテルスブルクに至る電信網と接続していることから、〈東京〉と〈函館〉を〈上海〉からロンドン、ニューヨークに至るまで接続していることになる。

5 - 3. 〈壇ノ浦〉の戦い：〈平〉家の滅亡と幼い〈安徳〉天皇の死

〈下関〉の海域は、この地で行われた二つの合戦によって歴史的に名を知られている。

現在の〈下関〉の近くで行われた〈壇ノ浦の戦い〉は、かつて巨大勢力を誇っていた〈平〉家⁽²⁸⁾の悲劇的運命を決定づけた。この一族は西暦1185年5月(皇紀1845年4月)にわずかな生存者を残して、ほぼ全滅したのである。退位させられた当時6歳の第81代〈帝〉〈安徳天皇〉(西暦1181-1185年、皇紀1841-1845年)は、祖母〈時子〉の両腕に抱かれて溺死したが、母〈徳子〉⁽²⁹⁾はそのとき我が子を救おうとした。〈徳子〉は第80代〈帝〉〈高倉天皇〉⁽³⁰⁾の未亡人にあたり、〈平〉家の最後の棟梁〈宗盛〉の父〈清盛〉⁽³¹⁾の娘でもある。海峡の入口に設置されている記念碑は、天皇の息子の死を思い起こさせるものである。

5 - 4. 〈下関〉の爆撃

第二の戦闘は1864年9月5日から6日にかけて起こった。〈長州〉一族に配置された砲兵隊が、イギリス、フランス、オランダ、北アメリカ合衆国の連合艦隊に爆撃されたのである。

6. 面積と住民数、日本人の起源の仮説

日本は比較的細長い形状の群島であり、面積は245520平方キロメートル、1877年1月の国勢調査によると住民数は34388404人、7220194世帯に及ん

でいる。そのうち三つの主要な島とそこに属する小島だけで、面積が186595.2平方キロメートル、住民数は33681106人、7158063世帯である。さらにその詳細を述べると〈本土〉は147312平方キロメートル、〈四国〉は11457.6平方キロメートル、〈九州〉は24552平方キロメートル、日本海に浮かぶ比較的大きな二つの島〈佐渡〉と〈対馬〉の面積を合計して、3273.6平方キロメートルである。

〈蝦夷〉は〈千島〉列島も含めて58924.8平方キロメートル、住民数は146615人、34167世帯であり、〈琉球〉島の住民数は167320人、27168世帯である。その他の住民数に関しては、沿岸に無数にある小さな各島々に委ねられよう。

現在の日本の住民、すなわち日本人の起源については、どのような意見の陳述もここでは控えることにしよう。これはまだ未解決の問題であり、人類学研究の解明に委ねられているからである。当然のことながらありとあらゆる情報があり、バカげた理論もあふれている。批判的意見を持った学識ある人間が成し遂げなかったことを、表面的な教育しか受けていない知識不足の人間が発見したと信じていたこともある。そのような人間にとって、科学的根拠は余計なものであって、重要ではない。まさか失われたユダの一族を、⁽³²⁾宣教師が日本人の中に再発見しようとは！

7. 日本の古い区分

民族の伝統がほんの少し光を当てたことから、この暗い問題が明るみに出た。当初、日本人は南西の島〈九州〉に居住していたのだが、そこから主要の島〈本土〉に居住地を拡大、さらに北上したことで、原住民〈アイヌ〉を追放したという問題である。このとき〈アイヌ〉は、大陸に最も近い朝鮮経由で大陸に入植したという推論も可能である。日本神話は、内海〈瀬戸内〉の〈淡路〉島をこの国で最初につくられた島と呼び、〈帝〉の先祖で歴史上の初代天皇でもある〈神武天皇〉を、伝説のヴェールに包ま

れている存在であるにもかかわらず、〈九州〉の〈霧島〉山から〈本土〉へ移動させている。

野蛮な国境の隣人〈蝦夷〉の略奪行為から、温和に農業を営んでいた臣民を守るため、西暦前25年(皇紀636年)にはすでに第11代〈帝〉〈垂仁天皇〉(西暦前29-70年, 皇紀632-730年)が〈大和〉を四つの軍事区分に分け、それぞれの地域を〈將軍〉の支配下に配置していた。これらの地域は軍用道路という意味で〈道〉という名を持ち、国境の位置に従って東海岸の道が〈東海道〉, 南海岸の道が〈南海道〉, 西海岸の道が〈西海道〉, 北の陸路が〈北陸道〉と呼ばれていた。

第13代〈帝〉〈成務天皇〉(西暦131-190年, 皇紀791-850年)は、すでに北緯38度まで拡大していた自国を32の国に分けた。

7-1. 女帝〈神功皇后〉

しかし現在日本に残っている区分は、根本的には偉大な女帝〈神功皇后〉に負うものである。この女帝は占領された朝鮮を手本にして、西暦203年(皇紀863年)に自国を五つの天皇直轄地域〈五畿内〉, すなわち〈山城〉, 〈大和〉, 〈河内〉, 〈和泉〉, 〈摂津〉に分けた。さらに方角に従って名付けられた軍用道路または行政区にあたる七つの〈道〉も設けた。

(1) 〈東海道〉は東海岸の道であり、太平洋にある〈伊賀〉から、〈甲斐〉を含めて〈常陸〉まで包括している。

(2) 〈東山道〉は東の山道であり、〈近江〉(北緯35度)から、〈東海道〉と日本海諸国がある島の北部国境まで。

(3) 〈北陸道〉は北の山道であり、〈若狭〉から、その近くにある〈佐渡〉島も含めて日本海の〈越後〉まで。

(4) 〈山陰道〉は北の山道であり、〈丹波〉から、〈隱岐〉諸島も含めて日本海の〈石見⁽³³⁾〉まで。

(5) 〈山陽道〉は南の山道であり、内海〈瀬戸内〉にある〈播磨〉から、

〈長門〉ないし〈長州〉まで。

(6) 〈南海道〉は南海岸の道であり、〈本土〉の〈紀伊〉と〈四国〉にある四つの国〈伊予〉、〈讃岐〉、〈阿波〉、〈土佐〉、くわえて内海〈瀬戸内〉の〈淡路〉島からなる。

(7) 〈西海道〉は西海岸の道であり、〈九州〉の九つの国からなる。

そして〈壱岐〉島と〈対馬〉島は、朝鮮海峡にある。

この日本の古い区分は多少の変更はあるものの、現在なお同じ区分で残っている。国の拡大に関連して、〈道〉とそこに属する国の数も増えてきた。北の海岸の道である〈北海道〉(蝦夷と千島列島)には、現在八つの〈道〉がある。

7-2. 最近の行政区分：〈五畿内〉と〈道〉、国と郡

最近の日本の区分は、〈五畿内〉と八つの道に分かれている。〈道〉はさらに58国と717郡に分かれている。それらの位置と広がりには以下のとおりである。

(1) 〈本土〉にある〈五畿内〉は西経34-35度、東経175-136度の間に位置し、内海〈瀬戸内〉の西海岸と、〈本土〉が東西、南西、北東に発展していく分岐点を形成している。〈山城〉(8郡)、〈大和〉(15郡)、〈河内〉(16郡)、〈和泉〉(4郡)、〈摂津〉(12郡)という五つの国がある。

(2) 東海岸の道である〈東海道〉は、〈山城〉と〈大和〉の東から始まり、〈本土〉の太平洋側の南海岸を形成して、北東の方向へ東経35度40分まで伸びている。15国と137郡を含み、以下の順で並んでいる。すなわち、〈伊賀〉(12郡)、〈伊勢〉(13郡)、〈志摩〉(2郡)、〈尾張〉と〈三河〉(いずれも8郡)、〈遠江〉(12郡)、〈駿河〉(7郡)、〈伊豆〉と〈甲斐〉(いずれも4郡)、〈相模〉(9郡)、〈武蔵〉(22郡)、〈安房〉(4郡)、〈上総〉(9郡)、〈下総〉(12郡)、〈常陸〉(11郡)である。〈伊豆〉に属しているのが〈ボニン⁽³⁴⁾〉諸島または〈小笠原〉諸島であり、太平洋の西経25度30分、東経141度59分に

位置している。

(3) 東の山道である〈東山道〉は、〈東海道〉と並行に走って、この島の中軸となっている。北端にあたる北緯38度から、東には太平洋岸、西には日本海岸がある。〈東山道〉は13国と114郡からなる。〈山城〉に接しているのが〈近江〉(12郡)で、ここから北の方角に向かって続いているのが、〈美濃〉(12郡)、〈飛驒〉(3郡)、〈信濃〉(10郡)、〈上野〉(17郡)、〈下野〉と〈岩代〉(いずれも9郡)、〈陸前〉(14郡)、〈陸中〉(10郡)、〈陸奥〉と〈羽前〉(いずれも4郡)と〈羽後〉である。〈岩代〉はかつて〈会津〉であった。昔〈仙台〉だった〈陸前〉と〈南部〉だった〈陸中〉は、ともに〈奥州〉を形成していた。同様にして〈羽前〉と〈羽後〉は昔は〈出羽〉といい、その名で歴史上にたえず登場してきた。

(4) 北の陸路〈北陸道〉は7国と93郡からなり、日本海沿岸に沿って〈近江〉の国境北から、〈東山道〉の西海岸がはじまる北緯38度までこの国の北部に向かって伸びている。〈近江〉の北に位置する〈若狭〉(3郡)から始まり、〈越前〉(8郡)、〈加賀〉、〈能登〉、〈越中〉(いずれも4郡)、〈越後〉(7郡)、〈佐渡〉⁽³⁵⁾島(3郡)と続いている。

(5) 北の山道〈山陰道〉は、〈本土〉西部に広がる地域の北岸の国からなり、東経132度から〈若狭〉まで、それには〈山城〉の北にある内陸地域〈丹波〉も含まれている。8国、54郡からなり、東から西に向かって、〈丹波〉(6郡)、〈丹後〉(5郡)、〈但馬〉と〈因幡〉(いずれも8郡)、〈伯耆〉(6郡)、〈出雲〉(10郡)、〈石見〉(7郡)、〈隠岐〉島(4郡)となっている。

(6) 南の山道〈山陽道〉は〈摂津〉の西部国境から始まり、内海〈瀬戸内〉の北岸全体を形成している。この島の最西端にある〈下関〉海峡の沿岸同様に、〈山陰道〉の〈石見〉に至るまで、日本海北岸の一部を形成している。8国と81郡から成り、〈摂津〉に接している東の〈播磨〉(16郡)から始まっている。〈美作〉(12郡)、〈備前〉(8郡)、〈備中〉(11郡)、〈備後〉(14郡)、〈安芸〉(8郡)、〈周防〉と〈長門〉(いずれも6郡)と続いている。

る。

(7) 6国と51郡からなる南岸の道〈南海道〉に関しては、〈本土〉島の〈紀伊〉(7郡)しかない。その南端は〈五畿内〉の南端であると同時に、〈紀伊〉水道の西岸でもある。

内海〈瀬戸内〉にある〈淡路〉島はひとつの国(2郡)であり、〈紀伊〉水道を〈友ヶ島〉水道と〈鳴門〉海峡に分断して、西の〈大坂〉湾を遮断している。

残る四つの地域は、〈四国〉島にある。〈四国〉の〈四〉は、数字の四を指している。〈讃岐〉(11郡)と〈伊予〉(14郡)が内海〈瀬戸内〉南岸に、〈土佐〉(7郡)と〈阿波〉(6郡)が太平洋南岸にあり、後者は同時に〈紀伊〉水道の東岸にもあたる。

(8) 〈九州〉島は、その名が示すとおり、九つの国である。12国97郡からなる〈西海道〉の西岸に位置している。〈筑前〉(15郡)、〈豊前〉(8郡)、〈豊後〉(8郡)が、内海〈瀬戸内〉西岸を形成している。〈筑前〉は〈下関〉海峡と〈豊後〉水道の南岸であると同時に、同名の水域の西岸でもあり、その東は〈四国〉の〈伊予〉に面している。〈豊後〉には、〈日向〉(5郡)と〈大隅〉(8郡)が、太平洋に面した島の東岸に並んでいる。そして〈薩摩〉(13郡)、〈肥後〉(15郡)、〈筑後〉(10郡)と〈肥前〉が、西岸に並んでいる。他に〈西海道〉に数えられるのは、朝鮮海峡にある〈壱岐〉と〈対馬〉諸島である。いずれも同じ名称の国を形成し、それぞれ2郡をもつ。

〈西海道〉の12番目の国として、太平洋の北緯26度、東経128度にある〈九州〉⁽³⁶⁾諸島も含まれている。

(9) 北岸の道〈北海道〉は〈蝦夷〉の島であり、1879年7月までは11国86郡に分かれていた。さらに千島列島がある。現在、〈北海道〉全域は二つの都市区分〈区〉と84の地方区分〈郡〉に分かれている。しかし本書においては、これまで発行されてきた地図に記載されていて、場所の規定語がわかりやすいという理由から、古い行政区分で説明を続けていくとしよう。

この島の太平洋に面した南岸と南東岸は〈大島〉(4郡)であり、これは同時に〈蝦夷〉と〈本土〉の間にある〈津軽〉海峡の北岸でもある。他には〈胆振〉(8郡)、〈日高〉、〈十勝〉、〈釧路〉(いずれも7郡)と〈根室〉(8郡)がある。〈根室〉から、北東に長く伸びている千島列島が、太平洋を〈蝦夷〉湾とつなぐ〈蝦夷〉海峡によって分けられている。この海岸の北東部にある〈北見〉(8郡)が、島の北端にまで広がっている。その北端の〈宗谷〉岬は、対岸にある〈樺太〉島とラ・ペルーズ海峡⁽³⁷⁾で分けられている。日本海西岸には、〈天塩〉(5郡)、〈石狩〉(9郡)、〈後志〉(17郡)がある。

日本沿岸に浮かんでいる大小の無数の島群は、その近辺国に分配されている。

7-3. 行政区分：〈府〉と〈県〉

行政管理に関しては、日本は三つの〈府〉と36の〈県〉に分けられている。それぞれの府(東京、京都、大坂)が〈知事〉に、それぞれの〈県〉が〈令〉によって統治されている。最近まで、〈琉球〉諸島は〈帝〉の封臣である〈王〉の下に自立した〈藩〉を形成していたが、1879年4月に(第36番目の)〈県〉となり、〈令〉の統治下に入った。

7-4. 北海道開拓庁〈開拓使〉

〈蝦夷〉島と〈千島〉列島(北海道)は、北海道開拓庁である〈開拓使〉の管理下に置かれた。

7-5. 軍事区域、教育区域、司法区域

さらに日本は六つの軍事区域と七つの教育区域、四つの司法区域に分けられている。

訳者注

- (1) ケンペル(1651-1716年)の日本旅行記については、ユンカーの注を翻訳して紹介する。「エンゲルベルト・K・ケンペル。オランダの業務に就いていたドイツ人医師は1600年に長崎に着き、そこから二度江戸旅行をしている。彼は将軍徳川綱吉(西暦1681-1709年、皇紀2341-2369年)に二度謁見したが、第112代〈帝〉の東山天皇(西暦1687-1709年、皇紀2347-2369年)には、旅行中何度も立ち寄ったにもかかわらず、謁見が許可されることはなかった。ケンペルはこのとき〈帝〉に謁見したと思い込んだうえに、〈将軍〉は日本の世俗的、軍事的皇帝のことで、〈帝〉は宗教的指導者のことであるという誤解を、1868年まで世の中に拡散するきっかけとなった。彼の著書『日本誌』は、西洋人にとって長い間日本に関する唯一の資料であったし、その並外れた正確な記述は非常に優れている。現代の旅行者も、この著作を高く称賛せざるを得ない。日本に関する数多くの叙述のおかげで、この本は今なお信頼できる忠実な旅行書なのだから。これが一世紀半以上も前に書かれた本だということを、読者はつい忘れてしまう。昔も今もそっくりなのである。それゆえに、この旅行書でこのような誤解が生じた原因は、この著者が表面的で欠陥のある観察をしていたせいではなく、日本人随行者の意図的な欺きを彼が回避できなかったことにあると言えるだろう」
- (2) 『日本紀』すなわち『日本書紀』のことを、ユンカーは〈ニホンジ〉あるいは〈ニッポンジ〉と記している。
- (3) 木村正辞の『国史案』は、上古、中古、近代と時代を三区分にしようとして、文化、風俗、生活、文学、法律、農業、商業、外交などについて、文明史的にまとめた教科書。明治10年と明治12年に二冊発行された。
- (4) ユンカーの注によると、「玉垣とは神宮を囲む尖った杭のこと。浦安とは海岸が平和であること。〈南膽武洲〉は南方の世界の侍のこと。かしい鉾は小さい槍のことで、〈キタル〉は鉄を鍛えること」。しかし実際には、〈南膽武洲〉は南にあるジャンプ樹の生える大陸という意味であり、〈細戈千足国〉は精巧な武器が十分に備わる国という意味である。
- (5) アオイ科フヨウ属の落葉低木。学名は *Hibiscus sinensis* または *Hibiscus mutabilis*。
- (6) キク科の多年草。学名は *Artemisia* sp.
- (7) ユンカーは注で、銀閣寺についても触れている。「第八代将軍足利義政(西暦1443-1473年、1490年没、皇紀2103-2133年、2150年没)によって建築された、金閣寺同様に豪華な庭園設備を備えた京都の北東の銀の家〈銀閣寺〉を〈金閣寺〉と比較することは、美術史家にとって興味深いことだ。建築様式の多様性において、この二つの寺院がこの時代で際立っているからである」
- (8) 学名は *Motacilla lugens*。長い尾を揺らして歩く姿から、石叩きとも呼ば

- れる。『日本書紀』の国生み神話では、尾を振って伊奘諾と伊奘冉に子づくりの方法を教えた。
- (9) 学名は *Agrion*.sp. 古くから蜻蛉は日本人に秋津と呼ばれ、親しまれてきた。『日本書紀』によると、蜻蛉の交尾の形に似ているという理由から、神武天皇は日本に秋津洲という名を与えたという。
- (10) 〈アシ〉または〈ヨシ〉はイネ科アシ属の多年草。平安時代までは〈アシ〉と呼ばれていた。学名は、*Phragmites Roxburgii* または *Phragmites japonicus* または *Arundo nitida*。
- (11) ユンカーの挙げた〈神〉の発音は〈カミ〉または〈シン〉。さらにユンカーは注において、神社と仏教寺院の違いについて補足している。「神社〈宮〉に祀られている古い祖国の神々や国民的英雄は、仏教徒が死後に神格化された〈仏〉と混同してはならない。〈仏〉は死者の魂を意味し、仏教寺院は神社とは区別して〈寺〉と呼ばれている」
- (12) ユンカーは注で、「〈瑞穂〉の〈瑞〉は〈めでたい〉の古い表現である」と指摘している。
- (13) ユンカーは瀬戸内海のことを「内海」と表現し続けるが、本稿ではわかりやすいように〈瀬戸内〉を添えていく。
- (14) 『兵要日本地理小志』は、江戸末期の漢学者である中野淑が陸軍参謀局に出仕していた1873年に執筆した陸軍兵学寮のテキスト。
- (15) 紀伊半島、淡路島、四国と周辺諸島の行政区分および幹線道路。紀伊国、淡路国、阿波国、讃岐国、伊予国、土佐国が含まれる。
- (16) 九州周辺の行政区分および幹線道路。筑前国、筑後国、豊前国、豊後国、肥前国、肥後国、日向国、大隅国、多禰国、薩摩国、壱岐国、対馬国、値嘉島が含まれる。
- (17) 近江国から陸奥国に本州内陸を貫く行政区分および幹線道路。近江国、美濃国、飛騨国、信濃国、諏訪国、上野国、下野国、武蔵国、陸奥国、石背国、岩代国、石城国、磐城国、陸前国、陸中国、陸奥国、出羽国、羽前国、羽後国が含まれる。
- (18) オーストリアの国名も「東の国」という意味をもつ。
- (19) 本州太平洋側中部の行政区分および幹線道路。伊賀国、伊勢国、志摩国、尾張国、三河国、遠江国、駿河国、伊豆国、甲斐国、相模国、武蔵国、安房国、上総国、下総国、常陸国が含まれる。
- (20) 北緯30度に位置する口之島はトカラ列島に属し、この列島を南北に隔てているのがトカラ海峡である。このトカラ海峡はイギリス人探検家の名にちなんでコルネット海峡とも呼ばれる。
- (21) 朝鮮海峡は、対馬海峡のうち対馬と朝鮮半島との間の海峡を指す。すなわち対馬海峡西水道のこと。

- (22) 〈オサガワラ〉とあるが、文脈から小笠原諸島を指すか。
- (23) 現在では、瀬戸内海の海域区分は漠然と十区分に分けられている。東より、紀伊水道、大阪湾、播磨灘、備讃瀬戸、備後灘、燧灘、安芸灘、伊予灘、周防灘、さらに安芸灘の一部として広島湾が含まれている。
- (24) 友ヶ島水道は紀州と淡路島の間の11キロの海峡で、紀淡海峡とも呼ばれる。
- (25) 壇ノ浦と和布刈の間の特に海峡が狭い区間が「早鞆の瀬戸」と呼ばれている。
- (26) 〈ホクレン〉とあるが、漢字の音読みで〈ロクレン〉か。
- (27) 「低い島を意味する〈ヒク〉島」とユンカーは注に書いてあるが、ここは日本書紀に「引島」として紹介された「彦島」のことであろう。彦島にある金ノ弦岬灯台は、明治4年に関門海峡の岩礁に初めて設置された礁標を移築して建設された。設計者は、明治政府が雇用した灯台建築主任技術者リチャード・ヘンリー・ブランドン。
- (28) ユンカーは注で、平家について補足している。「〈平〉家は第50代〈帝〉の〈桓武〉天皇(西暦782-805年、皇紀1442-1465年)の子孫にあたる〈平高望〉を祖としている。当時まだ世襲されていなかった〈源〉幕府の政敵であり、競争相手であった。〈源〉家は第56代〈帝〉の〈清和天皇〉(西暦859-870年、皇紀1519-1536年)の叔父〈源経基〉に由来している。〈源〉家で最初に將軍職を世襲させた〈源頼朝〉によって、〈平〉家は完全に滅ぼされた。このあと〈源〉家に將軍家が継承されていった」
- (29) 〈タイヨ〉とあるが、文脈から平徳子を指すか。
- (30) 〈タカムラ天皇〉とあるが、文脈から高倉天皇を指すか。
- (31) 〈宗徳時子〉〈清盛時子〉とあるが、文脈から平宗徳と平清盛を指すか。
- (32) 明治期に来日したスコットランド人の宣教師ニコラス・マクラウドは、「日ユ同祖論」を提唱して、1878年に『日本古代史の縮図』を出版したばかりだった。
- (33) 〈イワニ〉とあるが、文脈から〈石見〉を指すか。
- (34) 江戸時代には、無人諸島(ボニン諸島)とも呼ばれていた。
- (35) ユンカーは注で、本土の西に浮かぶ島〈佐渡〉の語源を、「左の道を意味する」と説明している。
- (36) 南西諸島を指すか。
- (37) 北海道最北端の宗谷岬とサハリンのクリリオン岬の間にある宗谷海峡は、フランス人探検家の名にちなんでラ・ペルーズ海峡とも呼ばれる。